厚生労働科学研究研究費補助金

エイズ対策研究事業

エイズに関する普及啓発における非政府組織（NGO）の活用に関する研究

平成１４年度　総括・分担研究報告書

主任研究者　　池上千寿子

平成１５（２００３）年３月

目次

Ⅰ　総括研究報告書
保健行動研究にもとつく青少年への予防介入の試み
池上千寿子　1

Ⅱ　分担研究報告

1　大学生男子におけるコントーム使用行動の背景要因についての検討
徐　叔子　8

2　男性同性間の性行為におけるコンドームの使用・不使用に関する研究
生島　嗣　１７

3　テレビトラマに描写される性の保健行動メッセージの分析
東　優子　４２

4　若者向けセクシュアルヘルス促進映像モデルパイロット版開発
兵藤　智佳　５４

Ⅲ　研究結果の刊行に関する一覧表　５７

Ⅳ　研究成果の刊行物・別刷　５８

厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策研究事業）
総括研究報告書

エイズに関する普及啓発における非政府組織（ＮＧＯ）の活用に関する研究

主任研究者　池上千寿子　特定非営利活動法人ぷれいす東京　代表

研究要旨　青少年の保健行動の促進を目的とした 3 年計画の 3 年目として以下の研究を実施した。①質問紙調査による一般男子のコンドーム使用行動の規定要因の分析、②男性と性行為を持つ男性に対する質的調査による質問紙の開発及び質問紙によるコンドーム使用規定要因の分析、③以上ふたつの男子調査の結果を、初年度・2 年度の実施した女子の調査結果と比較検討し、ジェンダーや性的指向による共通点及び相違点を検討する。④青少年の性の意識　態度に影響すると思われるメディアのジェンダー及びセクシュアリティの描写を分析する（昨年度よりの継続研究）、⑤以上の研究結果から青少年の保健行動を促進するのに有効なコンセプト及びメッセージをひきだし、映像教材パイロット版を制作する。⑥青少年による啓発プロジェクト（ぷ☆PEP)を結成し、学校、行政、メディアなど多様な資源と連携し青少年が開発したプログラムを実践しフィードバックを得る。

以上の研究の結果、①男子においてはコンドーム使用に対する優先的な態度が未形成であり、その背景に使用不安感があることがわかった。女子において保健行動を阻害していた関係性という要因は男子では影響していない。②男性同士の関係においては、関係性の要因が女子と同様に阻害要因になる一方、ハッテン場の存在の影響など、一般男女とちがうコンドーム使用規定要因があがった。③過去 5 年間計 25 本の TV 人気ドラマにおいて、保健行動の描写はほとんど出現しないだけでなく、とくに女性の保健行動を阻害する「関係性依存」「恋愛至上主義」「コミュニケーションモデルの欠如」が顕著にみられた。④そこで、映像教材パイロット版のコンセプトを、保健行動にたいする「動機のほりおこし」及び「動機の継続」に絞り、研究成果をふまえたシナリオを作成し高校生を主人公として制作した。⑤ぷ☆PEP のプログラム開発と実践から、国際的にも推奨されている「楽しいプログラムによる気づき」という手法は青少年や教師に高く評価されたが、一方、青少年に対する具体的予防啓発への拒否反応はおもに、「コンドーム教育は性交奨励になる」という教育管理職の態度であることも示唆され、この誤解を解くためのテキストの必要性が示唆された。

分担研究者
新潟県立看護大学　徐　淑子
ノートルダム清心女子大学　東　優子
特定非営利活動法人ぷれいす東京　生島　嗣
特定非営利活動法人ぷれいす東京　兵藤智佳

A　研究目的

本研究の目的は、①青少年の性の保健行動（予防、避妊）の背景要因（態度等）を分析し、②その要因にてらして既存の教材やメディアによるメッセージを分析し、の有効性を

検討し ③より有効な教材モデルおよび青少年への有効な「しかけ」を提案し、④行政の施策および青少年の保健行動の促進に貢献することを目的とする。3年計画の3年目である。3年間の研究の概要をＣＤＣによるヘルスコミュニケーションの１０ステップで示すと以下のようになる。

１０ステップ	２０００	２００１	２００２
Background information	文献調査		
Communication objects	青少年の保健行動の促進		
Analyze target audiences	女子コンドーム使用態度分析	女子コンドーム使用アドヒアランス調査 男子コンドーム使用調査	男子コンドーム使用態度分析・ＭＳＭコンドーム使用態度分析
Identify message concepts	Sexual Health 関係性依存要因の克服	Sexual Health 動機の掘り起こしと継続	Sexual Health 保健行動は「かっこいい」
Communication channel	啓発パンフレット分析（知識）	高視聴率ドラマ分析（意識、態度、関係）	ドラマ分析（継続） 保健行動映像の収集
Create message and material	手帳挿入型パンフレット Sexual Health Book	Sexual Health News Sexual Health Website	CONDOMing (映像教材パイロット版)
Develop promotion plan		多様な「しかけ」の開発と連携（行政、企業等）	ピアによるエンパワメント ぷ☆ＰＥＰの組織と連携
Implement communication strategies		女子用コンドームパッケージ「POPTEEN」	ぷ☆ＰＥＰによる実践とプログラム開発
Assess effects			評価基準の検討
Feedback			プログラム評価調査

B　研究方法

1）　男子質問紙調査

男子大学生（18-25 歳）について自記式質問紙調査による集団調査を実施した。調査内容は性交経験、コンドーム使用実績、コンドーム使用に関する意識・態度要因、情緒的支援尺度、階層性尺度である。有効票 180（集票数 267）のうち性交経験者 155（集票数の 58 1%）について最小２乗法、ヴァリマクス回転によりコンドーム使用に関する

１０の因子が抽出された。この１０因子についてコンドーム使用の実績に関する重回帰分析を実施した。

２）　同性間性行為を行う男子についての保健行動調査

異性間性行為を行う女子、男子調査との比較検討を目的とし、ゲイ　バイセクシュアルの男子に対してフォーカスグループディスカッション２回（11 人）、半構造化面接（18 人）を実施し、コンドーム使用態度尺度項目を抽出し、それをもとに自記式質問紙を開発した。ゲイパレード、ゲイサークルなどの協力をえて質問紙を配布し 304 の回収をえた。有効票 29 7 (平均年齢 27,7 歳)について最小２乗法、ヴァリマクス回転により因子分析を実施し、６つの因子を抽出した。

３）　メディアにおける保健行動メッセージの分析（継続）

昨年度に実施したテレビドラマ分析１１本にさらに１４本を加え、1997～2001 年に放送された若者層をターゲットにする現代劇の連続ドラマ合計 25 本（各年から５本）の番組を採取した。11～13 回完結のドラマの平均視聴率（ビデオリサーチ社の世帯視聴率データ・関東地区）は 20 8% (SD=4 8, range=15 0-31 9)であった。これについて、独立した 2 人が視聴しながら，「ジェンダー」と「セクシュアリティ」に関する場面とその内容について，主としてプリコード方式のコーディング用紙に記録（一部自由記述）していくという形をとり、登場人物の属性、性行動の頻度、性行動の相手との関係性、性行動を主導したジェンダー、性の健康管理に関する行動、性行動によって引き起こされた結果、その他の性やジェンダーに関する情報を収集した。

４）　ビデオ教材パイロット版の開発

海外の映像に描写されたコンドーム登場シーン１３を抽出して作成したＤＶＤ資料、日本で製作配布されている中学生、高校生むけの避妊と予防の最新ビデオ３巻、および本研究班の研究結果を研究者と研究協力者全員で視聴、検討し、映像教材パイロット版のテーマおよびコンセプトを検討した。

５）　ピアによる教育実践プログラムの開発

２５歳までの若者を中心としたピアエンパワメントプロジェクト（ぷ☆ＰＥＰ）を結成し、９月に新規参加者１６名をえて基礎トレーニングを実施した。ぷ☆ＰＥＰでは学校でのクラス単位、学年単位、地域のアウトリーチや教員保健師研修など対象の規模やニーズにあわせたプログラムを開発し主に学校現場、地域イベント、研修会で 2002 年１０月より１３回実践し、フィードバックを得た。このプログラムのコンセプトはＷＨＯの提唱する「セクシュアル　ヘルスの促進―行動勧告」にもとづき、「安心して性を語り、楽しいゲームやクイズに参加することで正しい知識を提供し保健行動の実践と促進を試みた。

（倫理面への配慮）

質問紙調査においては強制ではない自発的参加であり、個人情報は特定されないこと、およびデータの管理、解析、利用についての説明を口頭で参加者に行った。ＦＧＤ，面接調査では、参加者のプライバシーは保護されること、録音したテープは研究者のみが聴取すること、結果の引用については本人の承諾を得ることを確認し自発的に参加してもらった。映像開発については、登場人物の肖像権について本人と保護者の了解を得るとともに、製作協力者のクレジットについても合意を得

た。

C　研究結果

1）　男子の保健行動の分析

コンドーム使用態度要因において、過去のコンドーム使用にもっとも影響を与えていたのは「コンドーム使用の優先性が未形成」という因子であった。カップル間の関係性はコントーム使用に有意な影響を与えてはいなかった。「コンドーム使用の優先性の未形成」について、重回帰分析によってその背景要因を探ったところ、「コンドームを使いこなす不安」「性の健康リスクについての楽観的な態度」が背景要因となっていた。一方、「性に対するポジティブなコミュニケーション」及び「コンドーム使用の遊戯性」因子は、コンドーム使用の優先性を形成する因子として示唆された。「コンドームを携帯する女性への非好意的態度」因子は、男子のコンドーム使用に優位の影響を与えてはいなかった。

2）　異性同性間の性行為におけるコンドーム使用態度要因の分析

コンドーム使用・不使用に関わる６つの因子を因子負荷量の高い変数の意味内容から、第１因子「相手依存」以下「場のノリ優先」、「相手とのムード優先」、「コンドーム使用自信感」、「準備負担感」、「楽観」と命名・解釈した。コンドームを常用しないリスクについてもっとも影響していたのは「コンドーム使用意志の低さ」であり、パートナーの数やハッテン場の習慣などの変数は優位の差がなかった。「コンドーム使用意志」について行動パターン別に分析したところ、使用意志の低い人は、挿入する場合でも挿入される場合でも、「その場限りの相手」よりも「特定の相手」との方がコンドームを常用できないリスクが優位にたかまることがわかった。

3）　ドラマ分析

性に関する描写の出現頻度は、セックスに関する描写が 30%、キス 21%、抱擁 11%、その他の身体接触が 14%、性風俗などが 5%、コンドームや避妊が 1%、HIV/STIs は０3%、妊娠・中絶・出産などが 7%、性犯罪に絡むものが 2%であった。さらに、いわゆる「ベッドシーン」を初めとして、登場人物２人以上が行った性行動にのみ注目した場合、セックス 12%、キス 36%、抱擁 23%、その他の身体接触 29%であるが、こうした行為を主導したジェンダーに注目すると、セックス（31% vs 7%)、キス（36% vs 27%)、抱擁（42% vs. 33%)、その他の身体接触（47% vs 34%）であるなど、全体的に男性主導型である傾向をみることができる。

4）　映像モデル開発

若者一般を対象とし、学校現場で使用できる１５分程度のビデオで、テーマを「ＣＯＮＤＯＭｉｎｇ」とした。本研究から得られたエビデンスを元に、コンドーム使用の動機付けと動機の継続に焦点をあて「相手のある保健行動への具体的支援」とした。動機付けについては「男子における使用不安感や競合する動機の克服」「女子における使用依頼への負担感の克服」、動機の継続については「セックスになれるにつれて使わなくなる仕組みや思い込みへの気づき」を個別目標とした。登場人物は高校生と２０代前後の若者たちとした。

5）　ぷ☆ＰＥＰによるプログラムの開発と実践

「本物のコンドームを使うな」という学校側の要求に応じて開発した「腕と靴下による装着モデル」はユーモラスで画期的アイデア

として学生や教師から大好評をえた。男女の性器モデル等も医療機器教材ではない手作りの開発をした。対象の規模とニーズにあわせたオリシナルプログラムを１０以上開発した。参加した高校生の感想文から「講義ではないゲーム」方式が「初体験」だったが「新鮮」「楽しい」と評価された。保健師や教師からは、プログラムの教材かを求められた。

D　考察

若者の保健行動調査から、男女における保健行動の阻害要因の違いが明らかとなった。女子では関係性に依存する傾向やコンドームの携帯や使用依頼に対する心理的負担感、男子では使用不安感や快感等の競合する動機が主に阻害要因になりコンドーム使用を優先する態度が形成されにくい。一方、男子ではパートナーである女子の保健行動依頼が女子が想定するほど阻害要因にはならないことも示唆され、女子の負担感を克服しうるエビデンスになりうると思われる。ゲイ・バイ男性の調査から、ヘテロの関係と共通する阻害要因（関係性および「快感」等）とゲイ・バイ固有の阻害要因（潤滑剤の有無やハッテン場の存在等）があきらかとなった。このことから、ジェンダーや性的指向による違いを理解し、そのニーズにあわせてターゲットを絞ったアプローチおよびジェンダーと性的指向を超えてなお有効な保健行動促進のアプローチというふたつの方向性へのエビデンスがえられたといえる。保健行動を継続することが困難な要因は、性交経験をつむほどにリスク意識が薄れがちであることが一因であり、動機付けメッセージだけでなく動機の継続を支援する工夫が重要であることもあきらかとなった。

過去５年間の交視聴率ドラマ分析からは、保健行動の動機付けも動機の継続への支援メッセージもひきだせなかった。むしろ、人間関係や性行動について①言語的コミュニケーションに関するロールモデルの欠如、②他者依存的展開、③恋愛至上主義、という阻害要因ばかりが指摘された。このことはメディアをとおして社会は、若者に教育や啓発キャンペーンと相矛盾するメッセージを提供し続けていることを意味する。このことからも「知識」だけを講義する予防啓発はほとんど無効にされてしまうであろうし、保健行動そのものが「かっこい」のだというイメージ転換をメディア等を駆使して強力に推進すべきことが示唆される。

ピアによるプログラムの開発と実践および参加者からのフィードバックから、①行政、学校との連携啓発活動における行政のコーディネート役割の重要性、②コンドームの導入は性交のすすめではなく責任ある性行動を促進する健康管理教育であるということについての教員や学校管理職への啓発の必要性、③プログラムの自主的開発が参加者のエンパワメントになりうること、④安心して性を語り楽しく参加しながら「気づく」という新しいプログラムへのニーズが示唆された。

E　結論

性の保健行動の促進は、性交の奨励ではなく、責任ある行動の促進につながる。しかし性の保健行動は、「相手のある行動」で「予防的行動」であることから「知識」だけでは行動につながらない困難さをもつ。保健行動の阻害要因はジェンダーおよび性的指向による違いがみられる。一方、「愛、信頼、特定の関係」や「快感、ムード」などジェンダーや性的指向をこえて共通する阻害要因もあき

らかとなった。このことから阻害要因を克服する動機付けが必要であることがわかった。また、動機の継続が困難であることから使用を継続する支援も重要である。このためにはジェンダーと性的指向の違いを考慮したアプローチと共通要因を考慮したアプローチの両方で介入する必要がある。

過去５年間若者をターゲットとしたメディア（ＴＶドラマ）は性の保健行動を示さず、むしろ若者の保健行動を阻害するメッセージを流しつづけている。「知識」と矛盾するこのメッセージに対抗するためには、保健行動は「かっこよい」のだという具体的かつ実践的なメッセージを若者に強力に提供し、若者の行動能力をひきだす必要がある。このための有効なプログラムの開発には若者自身の自発的参加が重要である。

以上の研究結果をもとにジェンダーの違いを考慮に入れて若者の保健行動を動機付け、動機の継続を支援するコンセプトを整理し、映像教材の開発を試みた。

F　健康危険情報

なし。

G　研究発表

1　論文発表

池上千寿子　ＨＩＶと共生し“性の健康管理”を促進する環境とは 「エイズ・ＳＴＤと性の教育」100-115　十月舎 2002

池上千寿子　若者の保健行動の分析と予防介入についての考察　エイズ学会誌　５巻１号 48-54　2003

池上千寿子　ＨＩＶ／ＡＩＤＳ支援におけるＮＰＯの役割　公衆衛生　66　830-833 2002

2　学会発表

Ikegami,C.,Higashi,Y , Gender and Sexuality in Popular Japanese TV Dramas ,7th Asian Congress of Sexology November 14-17,2002 Singapore

Ikegami C ,Suh S ,Higashi.Y., CONDOMing Campaign Sexual Health Promotion in Japan 16th World Congress of Sexology March 9-14, 2003 Cuba

池上千寿子　地域におけるＨＩＶ／ＡＩＤＳケアの取り組み　日本エイズ学会国際シンポジウム 2002　名古屋

分担研究者

徐　淑子他　パートナーとの関係性の認知が短大・大学女子のコンドーム使用行動に与える影響、日本エイズ学会２００２、名古屋

東　優子他　人気テレビドラマにおけるジェンダーとセクシュアリティに関する分析、日本エイズ学会２００２、名古屋

生島　嗣他　HIV 陽性者の就労とプライバシーに関する調査、国際職業リハビリテーション研究大会、大阪　２００２

生島　嗣他　ゲイ・バイセクシュアルのコンドームに関する調査、日本エイズ学会２００２、名古屋

生島　嗣他　男性同性間性行為におけるコンドームの使用・不使用の要因に関する質的調査結果とヘテロセクシュアルの若年女子調査・男子調査との比較研究、日本エイズ学会２００２、名古屋

生島　嗣他　ＨＩＶ陽性者に対するバディ派遣サービスの利用に関する考察、日本エイズ学会２００２、名古屋

生島　嗣他　新ＨＩＶ陽性者対象サポートグループＰｅｅｒ　Ｇｒｏｕｐ　Ｍｅｅｔｉｎｇの意義と今後の課題、日本エイズ学会２０

０２　名古屋
兵藤智佳、若い女性の「渾然妊娠による結婚」とHIV感染リスクに関する考察、日本エイズ学会2002名古屋

H　　知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1　特許取得
　なし。
2　実用新案登録
　なし。
3　その他
　なし。

厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策研究事業）

分担研究報告書

日本の若者の性と保健行動の研究
－大学生男子におけるコンドーム使用行動の背景要因についての検討－

（分担研究者）
徐　淑子（新潟県立看護大学）
研究協力者　東優子（ノートルダム清心女子大学）、村瀬幸浩（一橋大学）
兵藤智佳（ぷれいす東京）、野坂祐子（お茶の水女子大学大学院）、白坂ゆき（お茶の水女子大学大学院）、

【研究要旨】
本研究は，大学生男子におけるコンドーム使用行動を，コンドーム使用についての態度、パートナーとの関係性との関連において検討することを目的とした。対象は関東圏の大学生男子とし，無記名自記式質問紙をもちいて授業時間を利用した集合調査を実施した（n=413，性交経験率 58 2%）。その結果，①コンドーム使用行動への影響は、第Ⅰ因子（コンドーム使用の優先性未形成）がもっとも強かった。②男子では、カップル間の関係性要因は、コンドーム使用行動に直接的な影響をもっていなかった。優先性未形成の背景には、　リスクについての楽観的態度や、相手との話し合いやスムースな装着が苦手であるなど、コンドームを使いこなせていない状況があると思われる。優先性未形成の要因が性的場面でコンドーム使用を実現させないような状況的要因、対人過程にどのように関与しているかの検討が今後必要と思われる。

A　研究目的

コンドーム使用の背景要因に性差が見受けられることは、比較的よく報告されている。また、前年度に実施した大学生男子を対象としたフォーカス・グループ・ディスカッションによる質的検討でも、この傾向が示唆された。

一方、コンドーム使用行動は「相手のある保健行動」のひとつであり，その実行可能性には，その時々のパートナーとの関係性がなんらかのかたちで影響を与えるものと考えられる。

これらのことを踏まえ、本研究では、同様の視点で前年度までに実施した女子を対象とした調査の継続研究として、大学生男子のコンドーム使用行動の背景要因について、つぎの二点から検討することを目的とした。

① コンドーム使用にかんする態度構造の探索的検討

② カップル間の関係性要因およびコンドーム使用にかんする態度要因が、コンドーム使用行動にとのように、影響しているか。

B 方法

① 方法および対象

男子大学生（18-25 歳）を対象に自記式無記名質問紙による集団調査を実施した（n=413）。回収された票より性交経験者の 261 票を選び分析の対象とした。

② 調査内容

以下のとおりである。

・コンドーム使用態度（60 項目）

・性の健康リスクについての認知（12 項目，α=0 75）

・コンドーム使用行動（5 項目）

過去 3 ヶ月の使用頻度

過去 1 年間の不使用経験

次回性交時の使用意思

次回性交時の使用提案

次回性交時の準備

・特定パートナー間の関係性

情緒的支援（カップル間の表出面の満足度、9 項目、α=0.82）

階層性（カップル間の上下関係や固定化した意思決定の様式の有無、7 項目，α=0 55）

・パートナー関係（最近 1 年間）

特定パートナーの有無

非特定パートナーをもった経験の有無

C 結果および考察

1）コンドーム使用態度についての探索的検討

① コンドーム使用態度の検討に使用する質問項目の選別

前年度に実施した男子大学生を対象とした自由記述調査およびフォーカス・グループ・ディスカッション調査の結果から起こした質問項目に女子調査で使用した質問項目を加えてアイテム・プールをつくり、そこから 60 項目を選択した。

回答選択肢は、「全く当てはまらない」から「よく当てはまる」までの 5 段階とした。おのおのの回答選択肢に 1 から 5 点を配点し、得点化した。

② 不良項目の除外(表 1)

60 項目の反応分布および記述統計から平均、標準偏差、尖度・歪度をみながら、13 の不良項目を除外した。

③ 因子分析（表 2）

47 項目を因子分析に投入した。予備的分析の後，主因子解，斜交回転，10 因子を指定して因子分析を実施した。

得られた 10 因子を、つぎのように解釈・命名した。

（第 I 因子）コンドーム使用の優先性未形成

（第 II 因子）コンドームを携帯する女性への非好意的態度

（第 III 因子）コンドーム準備の対人面への悪影響

（第 IV 因子）性にたいするポジティブなコミュニケーション

（第 V 因子）使いこなし不安

（第 VI 因子）安全な性行動への準備

（第 VII 因子）コンドームの苦手意識

（第Ⅷ因子）コンドーム使用による流れの遮断

（第Ⅸ因子）性の健康リスクについての楽観的な態度

（第Ⅹ因子）コンドーム使用の遊戯性

2）各要因のコンドーム使用行動への影響

コントーム使用行動の背景要因につき、重回帰分析を実施して検討した（図１）。

① 過去３ヶ月におけるコンドーム使用を目的変数とする重回帰分析を実施した(図２)。その結果、もっとも影響力の強かった要因は、「優先性未形成」であった。関係性および健康リスク認知は、使用状況に影響していなかった。他の４つのコントーム使用行動に関しても、ほぼ同し結果が得られた。

② つぎに、第Ⅰ因子「優先性の未形成」を目的変数とする重回帰分析を実施した。「性の健康についての楽観的な態度」「使いこなし不安」「性に対するポジティブなコミュニケーション」「コンドーム使用の遊戯性」が有意な影響力をもっていた（図３）。

3）考察

コントーム使用行動への影響力は、第Ⅰ因子「コントーム使用の優先性未形成」がもっとも強かった。前年度に実施した女子調査でも、本調査での「優先性未形成」に対応する態度因子が抽出され、それが過去のコンドーム使用におよぼす影響は、同様に強かった。場面で、なによりその保健行動を優先させるという態度が未形成であることが、その保健行動を実現させない直接的な要因であることが、男女で一致する傾向として推察される。男女の双方で、コンドーム使用を優先させない・達成させないことを支えあうような、対人的な過程が介在するのではないだろうか。コンドーム使用は「相手のある保健行動」であり、対人過程や状況的な要因に注目した検討が、より必要と思われる。

一方、男子では、女子の結果と異なり、カップル間の関係性要因は、コンドーム使用行動に直接的な影響をもっていなかった。男子は、コンドーム使用を、相手との関係性に関連づけてとらえる傾向があまりないことが示唆される。

男子の優先性未形成の背景には、　リスクについての楽観的態度や、相手との話し合いやスムースな装着が苦手であるなと、コンドームを使いこなせていない状況があると思われる。

D　結論

大学生男子におけるコンドーム使用行動を，コンドーム使用についての態度、パートナーとの関係性との関連において検討することを目的とする質問紙調査を実施した（n=413，性交経験率 58.2%)。その結果，①コンドーム使用行動への影響は、第Ⅰ因子（コンドーム使用の優先性未形成）がもっとも強かった。②男子では、カップル間の関係性要因は、コンドーム使用行動に直接的な影響をもっていなかった。優先性未形成の背景には、　リスクについての楽観的態度や、相手との話し合いやスムー

スな装着が苦手であるなど、コンドームを使いこなせていない状況があると思われる。

コンドーム使用は「相手のある保健行動」であるという視点から、優先性未形成の要因が性的場面でコンドーム使用を実現させないような状況的要因、対人過程にどのように関与しているかの検討が今後必要と思われる。

表1 ❷コントーム使用態度項目の記述統計量

	項目	肯定率	mean	SD	歪度	尖度	削除
V1	コントームは　自分で買う	84 2	4 24	1 00	-1 54	2 07	❸
V2	コントームは　自分にとって身近なものではない	11 8	2 16	1 08	0 73	-0 13	
V3	いつも　コントームを持ち歩くようにしている	21 1	2 39	1 24	0 57	-0 71	
V4	コントームへの苦手意識がある	11 2	2 12	1 07	0 60	-0 50	
V5	コントームについての話題は　相手とのコミュニケーションとなることがある	37 2	3 00	1 10	-0 20	-0 78	
V6	コントームの正しい装着の仕方がわからない	3 4	1 63	0 81	1 57	3 16	❸
V7	自分はコントームをつけたくなくても　相手がつけることを希望すれば使用する	84 8	4 26	1 07	-1 70	2 36	❸
V8	計画外の妊娠をすることは　人生に大きな影響を及ぼす	93 9	4 66	0 70	-2 67	8 68	❸
V9	セックスの流れを止めないためにも　コントームはあらかじめ用意しておく	67 2	3 81	1 08	-0 80	0 08	
V10	相手が病気に感染しているかどうかは　賭けのようなものだと思う	19 2	2 43	1 14	0 31	-0 84	
V11	勢いで始めたセックスでも　コントームを使う	55 7	3 63	1 11	-0 52	-0 29	
V12	相手への愛情　関係の違いによってコントームを使うかどうかは異なる	11 8	2 11	1 09	0 76	-0 17	
V13	コントームをうまく装着できない	5 3	1 83	0 90	1 26	1 77	❸
V14	相手がコントームなしのセックスでもよいといえば　使わない	28 2	2 70	1 28	0 32	-0 96	
V15	愛があれば　予定外の妊娠でもかまわない	8 0	1 93	1 01	0 88	0 00	❸
V16	身近な人が病気に感染したら　病気についてもっと深刻に考えるだろう	87 0	4 22	0 83	-1 29	2 21	❸
V17	コントームを使うことは　セックスのときの楽しみとなることがある	12 9	2 52	1 01	0 31	-0 14	
V18	先のことを考えずに　コントームを使わないことがある	20 5	2 25	1 26	0 70	-0 67	
V19	初めてのセックスでは　コントームの使い方がわからない	26 2	2 54	1 18	0 34	-0 95	
V20	緊張していると　うまくコントームを装着できない	18 6	2 29	1 13	0 63	-0 53	
V21	コントームを用意しておくことは　相手にプレッシャーを与えてしまうと思う	15 3	2 30	1 07	0 41	-0 71	
V22	コントームを持ち合わせていないときは　買ってきてからセックスをする	56 1	3 48	1 22	-0 56	-0 57	
V23	女性がコントームを持っていると　女性の過去の経験を想像してしまい　憂鬱になる	27 8	2 65	1 25	0 19	-1 04	❸
V24	快感を望むもので　コントームは使わない	7 2	1 92	1 01	1 14	1 00	❸
V25	セックスの途中でコントームをつけるタイミングが難しい	37 9	2 94	1 25	-0 05	-1 06	❶
V26	コントームのパッケージを見たり　説明文を読むのは　楽しい	23 7	2 65	1 15	0 24	-0 74	
V27	コントームがないときは　セックスを中断する	37 4	3 12	1 16	-0 11	-0 70	
V28	コントームは買いにくい	38 2	2 81	1 28	-0 08	-1 26	❸
V29	コントームを持ち歩いている女性とは　付き合いたくない	12 2	2 21	1 12	0 65	-0 28	
V30	お互い愛し合っているなら　コントームなしのセックスをしてもいい	25 5	2 62	1 22	0 29	-0 89	
V31	コントームが手元になければ　使わなくてもかまわないと思う	12 9	2 17	1 04	0 65	-0 33	
V32	前もって　コントームを装着する練習をしておく	32 4	2 70	1 24	0 21	-1 11	❸
V33	セックスに夢中になっている時には　コントームを着け忘れることもある	15 6	2 16	1 09	0 63	-0 61	
V34	コントームがもっと安いか無料であれば　使うだろう	44 1	3 18	1 34	-0 18	-1 12	❸
V35	普段はコントームを使っても　「安全日」には使わない	14 6	2 11	1 11	0 78	-0 29	
V36	コントームを用意しておくと　相手に　下心があると思われそうで嫌だ	33 5	2 83	1 17	-0 01	-1 00	❸
V37	女性がコントームを買うことに　抵抗がある	20 2	2 36	1 14	0 50	-0 72	
V38	ペニスが十分に固くならず　コントームを装着できない	6 5	1 78	0 91	1 05	0 40	❸
V39	計画外の妊娠や病気の感染は　自分にとっては身近な問題ではない	14 6	2 22	1 09	0 62	-0 43	
V40	女性の体のしくみを知っていることは　大切だと思う	93 5	4 41	0 75	-1 84	5 47	❸
V41	なんとなく　自分は病気に感染することはないだろうと思っている	48 3	3 22	1 07	-0 54	-0 46	
V42	コントームのイメージは悪い	10 6	2 31	0 96	0 31	-0 50	

項目	肯定率	mean	SD	歪度	尖度	削除
V43 セックスの途中でコンドームをつける時間は　ばつが悪い思いがする	35 1	2 89	1 17	-0 04	-0 97	
V44 セックスの時以外でも　セックスやコンドームについて相手と話し合う	44 7	3 12	1 18	-0 27	-0 89	
V45 セックスがある予感がしたら　コンドームを用意しておく	68 4	3 72	1 01	-0 71	-0 09	
V46 女性がコンドームを持っていると　その人への関心が下がる	9 5	2 22	0 95	0 64	0 17	●
V47 お酒で酔っ払ってしまった時に　コンドームを使うことなど考えないことがある	19 2	2 47	1 13	0 42	-0 60	
V48 相手には　自分がコンドームを用意していることを知られたくない	25 1	2 60	1 15	0 20	-0 91	
V49 コンドームを使わないことで相手との一体感が増すと思う	32 7	2 87	1 17	-0 04	-0 90	
V50 一回くらいコンドームをつけなかったからといって　何ら問題はない	13 0	2 23	1 06	0 60	-0 34	
V51 コンドームを使うのは　面倒くさい	38 4	3 00	1 20	-0 10	-0 95	
V52 コンドームを持ち合わせていないときは　使わずにセックスをする	16 8	2 32	1 15	0 62	-0 42	
V53 セックスをしているときは夢中で　コンドームのことは考えられない	7 3	1 98	0 94	0 82	0 22	●
V54 フェラチオの時は　コンドームをつけない	80 2	4 21	1 02	-1 47	1 96	●
V55 セックスをするときはいつでもコンドームをつけるものだと思う	56 1	3 52	1 14	-0 44	-0 65	
V56 「相手はHIV/AIDSや性感染症にかかっていないだろう」と思うとコンドームを使わない	9 2	2 03	1 03	0 90	0 29	
V57 相手が誰であっても　セックスをする時は必ずコンドームを使う	63 2	3 66	1 16	-0 70	-0 31	
V58 性教育を受けたことが　コンドームを使用することに影響している	59 9	3 49	1 25	-0 67	-0 52	
V59 コンドームについての自分の考えを相手にきちんと伝えるのは難しい	26 6	2 76	1 07	-0 02	-0 76	
V60 お酒で酔っ払ってしまった時に　コンドームを使うことなど考えないことがある	15 4	2 36	1 12	0 41	-0 63	

表2●因子分析の結果

		I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X	共通性
■第Ⅰ因子　保健行動優先性の未形成												
V11	酔いて始めたセックスでも　コンドームを使う	-0.795	-0.080	0.043	0.151	-0.054	0.030	0.110	-0.023	0.244	0.068	0.639
V18	先のことを考えずに　コンドームを使わないことがある	0.787	0.061	0.069	0.055	-0.063	0.011	0.014	0.105	0.023	0.017	0.585
V14	相手がコンドームなしのセックスでもよいといえば　使わない	0.773	0.082	0.043	0.110	0.067	0.117	-0.103	-0.145	-0.013	-0.167	0.669
V57	相手が誰であっても　セックスをする時はいつもコンドームを使う	-0.719	0.006	0.110	0.031	0.052	0.090	0.054	0.180	-0.013	0.098	0.668
V56	「相手はHIV/AIDSや性感染症にかかっていないだろう」と思うとコンドームを使わない	0.704	0.037	0.001	0.143	-0.089	-0.055	0.055	-0.005	0.043	-0.031	0.529
V33	セックスに夢中になっている時にはコンドームを脱ぎ捨てることもある	0.697	-0.030	0.107	0.007	0.001	-0.084	0.019	0.131	0.035	0.052	0.610
V35	普段はコンドームを使っても　「安全日」には使わない	0.668	-0.076	0.001	0.155	-0.048	0.069	0.120	0.020	-0.012	0.024	0.420
V47	お酒で酔っ払ってしまった時に　コンドームを使うことなど考えないことがある	0.647	-0.052	0.130	-0.073	-0.031	0.089	0.072	0.038	0.027	0.242	0.500
V27	コンドームがないときは　セックスを中断する	-0.645	0.085	0.069	0.088	0.106	0.136	0.023	-0.072	-0.010	-0.015	0.512
V22	コンドームを持ち合わせていないときは　買ってきてからセックスをする	-0.609	-0.020	0.108	0.012	0.051	0.242	0.031	-0.008	0.114	0.073	0.498
V55	セックスをするときはいつでもコンドームをつけるものだと思う	-0.589	0.110	0.061	0.127	-0.104	0.152	0.192	-0.077	0.081	0.268	0.591
V53	セックスをしているときは夢中で　コンドームのことは考えられない	0.584	-0.068	0.078	0.027	0.100	0.050	0.159	0.100	0.098	0.134	0.590
V50	一回くらいコンドームをつけなかったからといって　何ら問題はない	0.506	0.030	-0.063	-0.021	-0.100	-0.013	0.052	-0.026	0.248	-0.018	0.436
V12	相手への愛情　関係の違いによってコンドームを使うかどうかは異なる	0.500	0.043	0.095	0.184	0.064	0.229	0.053	-0.274	0.064	0.172	0.400
V30	お互い愛し合っているなら　コンドームなしのセックスをしてもいい	0.350	0.002	-0.026	0.012	0.116	0.006	0.007	-0.139	0.312	-0.236	0.527
V49	コンドームを使わないことで相手との一体感が増すと思う	0.322	0.031	0.129	0.171	0.043	0.143	0.006	0.125	0.219	-0.219	0.390
■第Ⅱ因子　コンドームを携帯している女性への非好意的な態度												
V29	コンドームを持ち歩いている女性とは　付き合いたくない	-0.012	0.760	0.058	-0.037	0.058	-0.137	-0.176	-0.085	0.068	-0.030	0.572
V23	女性がコンドームを持っていると　女性の過去の経験を想像してしまい　憂鬱になる	-0.082	0.722	-0.094	0.103	-0.009	0.080	0.114	0.057	0.063	0.035	0.587
V46	女性がコンドームを持っていると　その人への関心が下がる	0.043	0.702	0.105	0.001	-0.089	-0.062	-0.030	0.213	-0.025	-0.042	0.630
V37	女性がコンドームを買うことに　抵抗がある	0.063	0.479	0.173	0.035	0.009	-0.034	0.080	0.084	0.152	-0.022	0.380
V10	相手が病気に感染しているかどうかは　賭けのようなものだと思う	0.078	0.253	0.179	0.184	0.002	0.158	0.129	0.039	0.179	0.018	0.230
■第Ⅲ因子　コンドームを準備しておくことの対人面への悪影響												
V36	コンドームを用意しておくと　相手に　下心があると思われそうで嫌だ	-0.005	0.086	0.762	0.087	-0.056	-0.084	-0.002	-0.023	-0.076	0.031	0.587
V48	相手には　自分がコンドームを用意していることを知られたくない	-0.047	0.097	0.616	-0.117	0.023	0.022	-0.049	0.049	0.010	0.033	0.462
V21	コンドームを用意しておくことは　相手にプレッシャーを与えてしまうと思う	-0.050	-0.044	0.318	0.076	0.201	-0.016	0.045	0.109	0.084	0.077	0.229
V3	いつも　コンドームを持ち歩くようにしている	0.145	0.095	0.232	0.087	0.071	0.176	-0.086	-0.032	0.035	0.211	0.144
■第Ⅳ因子　性にたいするポンティブなコミュニケーション												
V44	セックスの時以外でも　セックスやコンドームについて相手と話し合う	0.081	0.049	0.016	0.867	-0.108	-0.020	-0.025	-0.018	0.034	0.196	0.690
V5	コンドームについての話題は　相手とのコミュニケーションとなることがある	0.113	0.043	-0.047	0.595	0.007	0.192	-0.138	0.055	0.189	0.155	0.494
V38	性教育を受けたことが　コンドームを使用することに影響している	-0.011	0.075	-0.009	0.365	-0.058	-0.001	0.176	0.014	-0.229	-0.012	0.182
■第Ⅴ因子　使いこなし不安												
V20	緊張していると　うまくコンドームを装着できない	-0.074	-0.043	0.051	-0.106	0.883	0.073	-0.065	0.184	-0.042	0.057	0.759
V19	初めてのセックスでは　コンドームの使い方がわからない	0.036	0.070	-0.128	0.111	0.395	-0.009	-0.023	0.127	0.172	0.283	0.285
■第Ⅵ因子　安全な性行動への準備												
V9	セックスの流れを止めないためにもコンドームはあらかじめ用意しておく	-0.128	-0.051	-0.047	-0.018	0.107	0.714	-0.170	0.127	-0.219	-0.053	0.590
5	セックスかある予感がしたら　コンドームを用意しておく	-0.288	0.050	-0.059	0.065	0.074	0.568	-0.068	0.046	-0.128	-0.051	0.550
V2	コンドームは　自分にとって身近なものではない	0.113	0.094	0.064	-0.193	0.172	-0.415	-0.057	0.046	0.044	-0.071	0.384
V34	コンドームがもっと安いか無料であれば　使ったろう	0.192	-0.092	0.298	-0.073	0.022	0.357	0.186	-0.036	-0.153	-0.132	0.275

V39 計画外の妊娠や病気の感染は　自分にとっては身近な問題ではない	0 031	0 107	0 172	-0 058	0 188	-0 273	-0 058	-0 078	0 227	0 224	0 25-
■第Ⅶ因子　コンドームの苦手意識											
V42 コンドームのイメージは悪い	0 048	-0 014	-0 029	0 026	-0 077	-0 075	0 702	-0 045	0 012	0 061	0 427
V59 コンドームについての自分の考えを相手にきちんと伝えるのは難しい	0 008	0 001	0 197	-0 154	-0 056	-0 008	0 449	0 015	-0 084	-0 130	0 331
V4 コンドームへの苦手意識がある	0 164	-0 037	-0 146	-0 058	0 290	-0 193	0 441	0 023	0 016	-0 019	0 486
V28 コンドームは買いにくい	-0 214	0 019	0 263	0 084	0 130	-0 051	0 367	-0 136	0 009	-0 068	0 292
■第Ⅷ因子，コンドーム使用による流れの遮断											
V43 セックスの途中でコンドームをつける時間は　ばつが悪い思いがする	0 045	0 131	0 077	0 001	0 128	0 178	-0 120	0 768	0 039	-0 246	0 617
V25 セックスの途中でコンドームをつけるタイミングが難しい	-0 034	0 033	-0 066	0 040	0 310	-0 021	0 091	0 610	0 072	-0 053	0 558
■第Ⅸ因子　性の健康リスクについての楽観的な態度											
V15 愛があれば　予定外の妊娠でもかまわない	0 021	-0 005	-0 077	0 095	0 111	-0 212	0 036	0 043	0 497	0 168	0 292
V32 前もって　コンドームを装着する練習をしておく	0 044	0 111	-0 056	0 229	0 286	0 141	0 321	-0 055	-0 428	0 120	0 397
V41 なんとなく、自分は病気に感染することはないだろうと思っている	0 098	0 203	0 016	0 126	-0 114	-0 143	0 021	0 009	0 266	0 024	0 162
■第Ⅹ因子　コンドーム使用の遊戯性											
V17 コンドームを使うことは　セックスのときの楽しみとなることがある	-0 137	-0 002	-0 010	0 183	0 080	-0 067	0 033	-0 234	0 083	0 570	0 323
V51 コンドームを使うのは　面倒くさい	0 083	-0 068	0 017	-0 050	-0 034	-0 047	0 244	0 293	0 333	-0 352	0 519
V26 コンドームのパッケージを見たり　説明文を読むのは　楽しい	0 041	-0 174	0 163	0 222	0 256	-0 034	-0 165	0 078	0 028	0 344	0 235
抽出後の負荷量平方和　合計	8 8	3 9	2 0	1 6	1 2	1 0	0 9	0 8	0 7	0 6	[illegible]
分散の %	18 6	8 3	4 3	3 5	2 5	2 1	1 8	1 7	1 6	1 3	[illegible]
累積 %	18 6	26.9	31.2	34 7	37.2	39.3	41 1	42.9	44 4	45 7	

因子間相関	I	II	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	X
I										
II	0 09									
III	0 14	0 37								
IV	-0 23	-0 14	-0 07							
V	0 22	0 12	0 14	0 08						
VI	-0 29	0 07	0 09	0 32	-0 08					
VII	0 24	0 32	0 40	-0 15	0 37	0 11				
VIII	0 09	0 19	0 28	-0 10	0 10	-0 05	0 40			
IX	0 46	0 13	0 21	-0 04	0 16	0 13	0 30	0 05		
X	-0 26	0 13	0 08	-0 15	-0 16	0 12	0 00	0 32	-0 16	

因子抽出法　主因子法　回転法 Kaiser の正規化を伴うプロマックス法

図1　コンドーム使用の背景要因

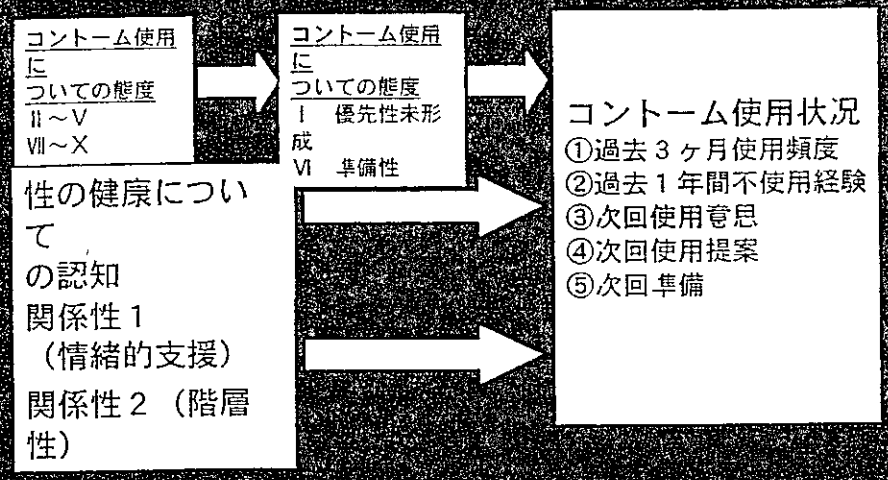
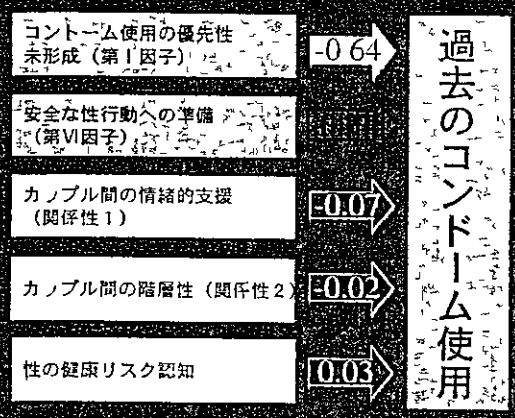


図2　過去3ヶ月のコンドーム使用の背景要因

重回帰分析（一括投入法）

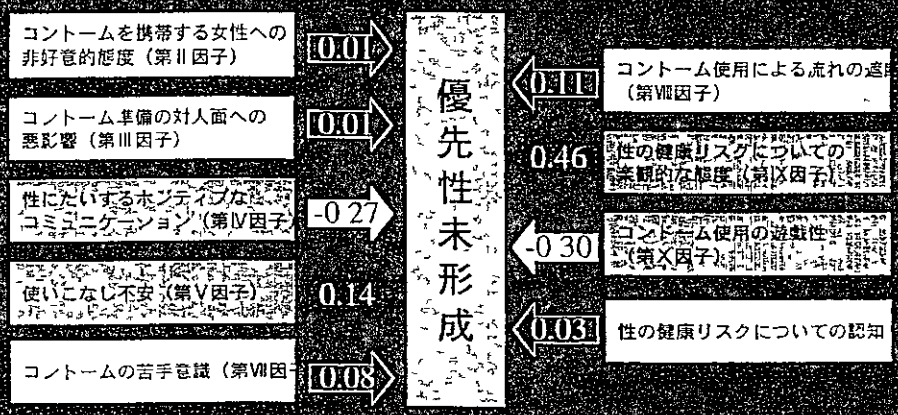


R^2=0.55

$F_{(5,166)}$=38.8,　p.<.000

図3　コンドーム使用優先性の未形成背景要因

重回帰分析（一括投入法）



R^2=0.43

$F_{(9,218)}$=20.1,　p.<.000

厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策研究事業）
エイズに関する普及啓発における非政府組織（ＮＧＯ）の活用に関する研究

分担研究報告書
男性同性間の性行為におけるコントームの使用/不使用に関する研究

（分担研究者）
生島嗣（ぷれいす東京）
研究協力者　葦田竜也（東京大学大学院/ぷれいす東京）、砂川秀樹（エイス予防財団/ぷれいす東京）

研究要旨　本研究の目的は男性同性間の性行為におけるコントームの使用／不使用の背景にある要因をあきらかにすることであり、パートナーの関係性や性行為における役割の違いなとから検討をした。ゲイ／バイセクシュアル男性のフォーカス・グループ・ディスカッション（以下ＦＧＤ）に引き続き、関東圏を中心に、東京レズビアン＆ゲイ・パレード 2002 の参加者、大学を中心としたゲイ・サークルそしてゲイバーの利用者に研究への協力を依頼し、無記名自記式質問紙を用いて実施した。有効回答数は n=303、対象者の平均年齢は中央値で 27.0 であった。ＦＧＤの分析結果を、若年女子／男子を対象とした異性間性行為に関する調査結果と比較することにより、因子の共通点と相違点が明らかになった。質問紙を用いた因子分析の結果からは６つの因子が抽出された。コンドーム使用行動に強く関わっていたのは使用意志であったが、パートナーの種類や性交渉における役割によって、コントームを使用しない頻度には相違が見られた。

１　目的

日本における HIV の感染率は現在のところ低レベルにとどまっているが、感染者数は HIV 感染者、AIDS 患者ともに近年増加傾向である。特に男性同性間の性的接触による感染が、全 HIV 感染者の 47%を占めている。更にその中の 50%の感染が東京都内からの報告であり、関東圏も含めると 80%にのぼる(1)。性行為におけるコントームの使用は、感染経路を遮断し、HIV の感染成立を防止する効果があるとされている(2) (3)が、その有効性が認められているにもかかわらず、世界的にみても HIV 感染率低下はそれほど顕著ではないのが現状である。また、単に HIV に対する正しい知識の普及や感染に対する危機認識たけでは必ずしも実際のコントーム使用に結びつかないことがいわれるようになっている(4)。個人の使用行動を規定する要素には従来のような性行動のパターンに加え、コントーム使用にいたる意志決定の背後にある要因が重要であると考えられる。特にコントーム使用に対する個人の態度がどのような要因によって規定されるかを調へることは、効果的な介入を行うためには意義のあるものと考えられる。本研究では、東京圏を中心とした男性と性行為を行う男性（MSM）のコントーム使用行動の背景にあ

る因子を探り、あわせて過去のコントーム使用行動　性行動及び抗体検査受検行動について調べ、男性同性間の性行為におけるHIV 感染予防に対する政策に対し、有効な指針をあたえることを目的としている。

2　方法

1）フォーカス　グループ　ディスカッションと半構造化面接

2002 年６月、東京都およびその近郊に居住のゲイ／バイセクシュアル男性（以下Ｇ／Ｂ男性）を参加者としたフォーカスグループ・ディスカッション（以下ＦＧＤ）を複数回行い、どのような動機や状況下でコンドームを使用し、また使用しなかったかについて、約２時間にわたりディスカッションを行ってもらった。参加者の年代は20 代～40 代。１回のＦＧＤに５~６名が参加した。参加者はぷれいす東京のスタッフを通した機縁法により募り、その同意のもとに発言内容をＭＤ（ミニ・ディスク）に録音した。その内容の分析をＫＪ法を用いて行った。また、18 名（20 代 13 名、30 代５名）のＧ／Ｂ男性に対し行った半構造化面接を用いたインタビューの内容も同様に分析し　その結果をＦＧＤの結果と合わせて考察した。

2）質問紙調査

1）のＦＧＤおよび半構造化面接によって得られた要因をもとに、質問紙を作成、８月のプレテストの結果を反映させて、内容や質問を修正した後、「僕らのためのコントーム使用＆意識調査～効果的な予防啓発活動に向けて～」と題した質問紙を完成させた。同質問紙は、９月７日・８日に開催された東京レスビアン＆ゲイ・パレード 2002 の参加者、９月～10 月にかけて、大学を中心としたサークルメンバーや新宿２丁目にあるバーの来店者を対象として無記名自記式質問紙法による調査を行った。

3　調査内容（質問紙調査）

1）コンドーム使用に対する意識、態度

2）特定パートナーとの関係性

- ® いい子尺度

3）回答者の属性

- ® 年齢
- ® 居住地
- ® 同居の有無
- ® 最終学歴
- ® 性的自認
- ® 性指向

4）性行動についての質問

- ® 男性との初体験の年齢
- ® 過去半年における特定パートナーの有無
- ® 過去半年におけるその場限りの相手の有無
- ® 過去半年以内の性的パートナーの人数
- ® アナルインターコース（能動　受動）の機会の有無
- ® 過去半年のハッテン場の利用行動

5）コンドーム使用意志

6）コンドーム使用行動

- ® オーラルセックス（能動・受動）
- ® アナルインターコース（能動・受動）

7）ＨＩＶ抗体検査行動の経験

8）その他、質問紙調査に対する自由意見